



# 年金者 しんぶん

第415号 2024年7月15日(月)

(通巻第614号)

全日本年金者組合中央本部

〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル  
発行人 杉澤 隆直 月刊1部100円(組合費を含む)  
昭和57年6月30日第三種郵便物認可

2024.6 組合員数100,451人 連絡先 ☎03 (5978) 2751 FAX03 (5978) 2777 honbu@nenkinsha-u.org ホームページ / 年金者組合で検索



## 新しいステージの始まり

### 国際社会に訴え、国政の転換展望

#### 最高裁第二小法廷が不当判決

「本件を棄却する」。次から次へと「不当判決」が下されました。

最高裁判所。並の人の入れるところではありません。床も柱も壁も4階までの階段も冷たい石で造られています。クーラーで冷やされた中では法廷に入る時間を待つ間、見張りが10〜12人ついています。

2015年から9年。裁判運動を続けてきました。暑さで溶けそうになる日も、雪の寒さで足のしびれる日も。原告5297人の周りには幾重にも支える仲間たちがいました。

全国の女性たちが「年金が頼り」の生活を恥を捨て、涙を流して地裁、高裁で語りました。「夏の間、クーラーは使いません。水のシャワーです。裁判長も1カ月7万円を過ぎてみてください」。低年金者の暮らしが報道されない日はありませんでした。

国に付度・屈服する最高裁。「低年金者の生活困難は否定できない」「適切な施策の充実が求められる」と「判決」に「補足意見」を記した裁判官がいました。

「年金引き下げ違憲訴訟」は、「法廷」と「政策形成訴訟」、二つの目標を掲げています。年金改革運動は、低年金を抜本的に解決する「最低保障年金制度」の確立、「物価高を上回る年金額」の実現です。国政の転換とともに、「女性差別撤廃委員会」、「ILO」など国際社会に訴えていく「新しいステージ」に入りました。

「改革の正義」は私たちにあります。堂々と前に進んでいきます。

(S・N 2024年6月7日)

## 風雪

忘れな草、ハイビスカス、スあじさい、紅の花。真さんこと「男はつらいよ」シリーズには花の名をつけた作品がいくつかある。

アササイ以外のマドンナはリリーこと浅丘ルリ子で、リリーとは英語の「ゆり」であるから、作題の由来が推測できる◆「黄次郎ハイビスカスの花」の舞台は沖縄。作中米軍機が地上スレスレを飛行するシーンがあり、「基地の島沖繩」を理屈抜きに表現する。さすがだと思った◆いま沖縄は辺野古米軍基地建設で揺れている。しかし、県民の意思はハッキリしていて、常に「NO!」だ◆地方自治体へ国の指示権を拡大する改定地方自治法が成立した。狙いの一つは、沖縄辺野古。しかし、地方自治をないがしろにするやり方に道理はなく、事実、全国知事会など異論の声が広がっていた◆いま国会は、裏金づくりで私腹を肥やす輩が支配する。国民をしる法をつくる資格はあるのか、腹が立つ毎日である。(U)